

# 上三川町は町村合併60周年を迎えました!!

昭和30年(1955年)4月29日、上三川町、本郷村、明治村が合併し、現在のの上三川町が誕生しました。今年度、町村合併60周年を迎える上三川町。その町の姿を様々な角度から、1年間に渡りご紹介します。

第11回は、上三川町と産業です。上三川町を支える農業・商業・工業を紹介します。

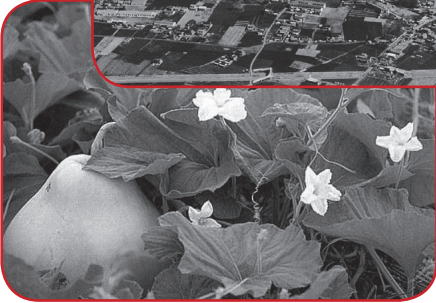
## 上三川町の産業

上三川町は豊かな田園風景が広がり、鬼怒川が町の東部を貫流する町です。多種の農作物がつけられる緑豊かな町ですが、もう一つ、近代工業の核を担う自動車製造の町としても知られています。昭和40年代に日産自動車が進出して以来、工場では年間約25万台の車が世界に向けて送り出されており、自動車産業の中心地のひとつとなっています。

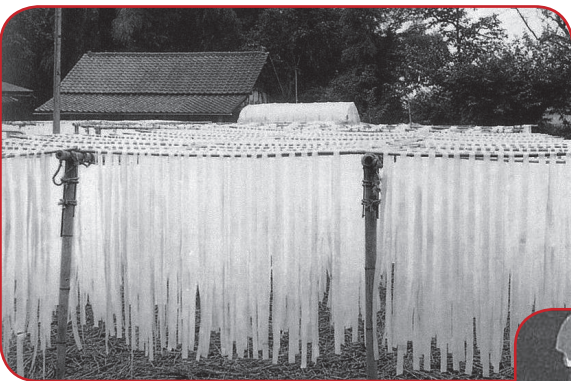
## 干びょうとふくべ

町の特産品の一つである干びょう。町の花でもある夕顔の実をひも状にむいて、乾燥させたもので、低カロリーながらカリウムや食物繊維などを多く含んでいます。なお、栃木県では、干びょうの「干」の字が「一」と「十」で成り立っていることから、1月10日を「かんびょうの日」と定めています。

また、夕顔の実を乾燥させ、固くなった皮に絵などを描いたものを「ふくべ細工」と言います。さらにこのふくべに日光彫、鎌倉彫等の技法を取り入れ、独特な工芸品として完成させたものを、「干瓢ふくべ一刀彫り」といい、上三川町の特産品となっています。



「かみたん」が描かれた  
ふくべ細工



手カンナによる  
干びょうむき



# 上三川町の農業

町では昔から河川流域の平坦で肥沃な土地を生かし、米や麦などの作物のほかに栃木県の特産品である干びょうの生産を主とした農業を行っていました。昭和50年代からは、首都圏に位置する地理的な優位性を生かして、イチゴ、トマト、ニラなどの施設園芸も盛んになっています。

また、乳牛や肉用牛、養豚といった畜産業も行われています。



イチゴの苗の葉かき作業

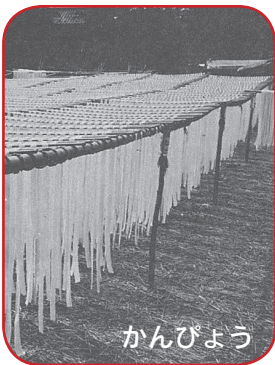


トマト

## 主な農産物と栽培面積・生産額

	栽培面積 (ヘクタール)	生産額 (百万円)
稲(米)	1,009	432
いちご	20	939
二条大麦	251	49
にら	30	298
アスパラガス	7.4	80
たまねぎ	13.7	73

(H26河内農業振興事務所調べ)

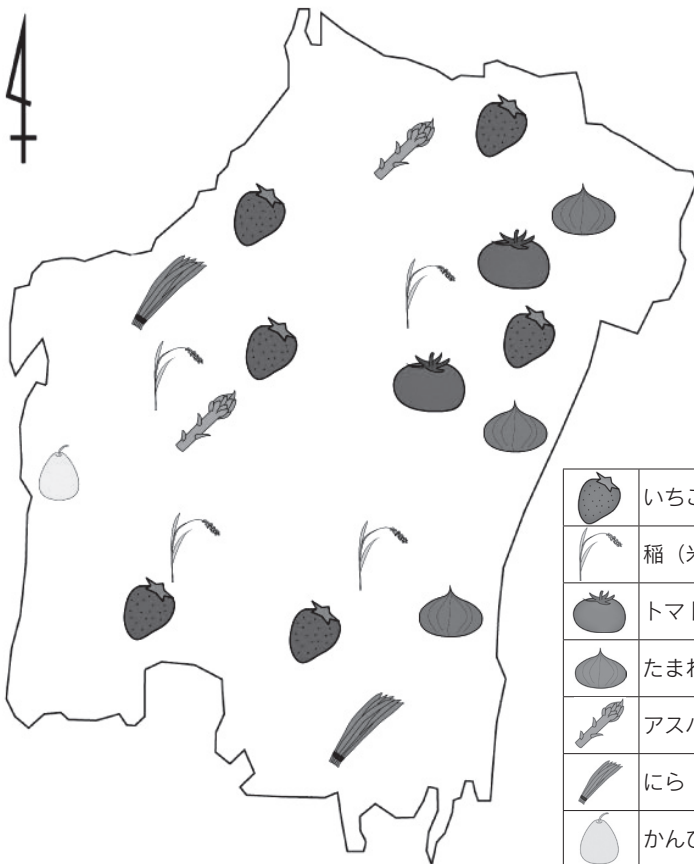


かんぴょう



いちご

## 上三川町の主な農産物と作られている場所



豚を移動させる風景(平成10年)



アスパラガス



麦の収穫(昭和40年頃)

# 上三川町の商業

町の商業は、古くから小売業を主体に町内の購買ニーズに添えてきましたが、中心市街地を中心とする既存商店街は、道路網の整備や車社会の進展などを背景に、消費者の大型店への流出が進み、高齢化や後継者不足とも相まって、空き店舗が増加するなど、取り巻く環境は一層厳しさを増しています。



商店街の活性化のための城址公園で開催された城址ナイト。平成27年6月から11月まで毎月1回開催され、大盛況でした。



昭和39年夏、町内の商店街で開催された七夕祭り



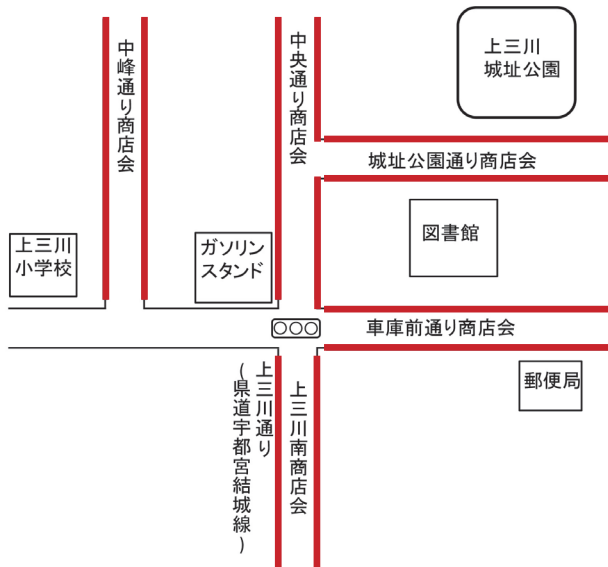
平成27年11月にいきいきプラザ西側通路にて開催されたふれあい朝市



昭和61年に開催された第1回ふれあい朝市



ふれあい朝市以前に役場で開催されていたびつくり市（昭和48年）



町おこしの一つとして、BQグルメ研究会により開発されたかみのかわ黒チャーハン。現在町内7つの店舗で食べることができます。

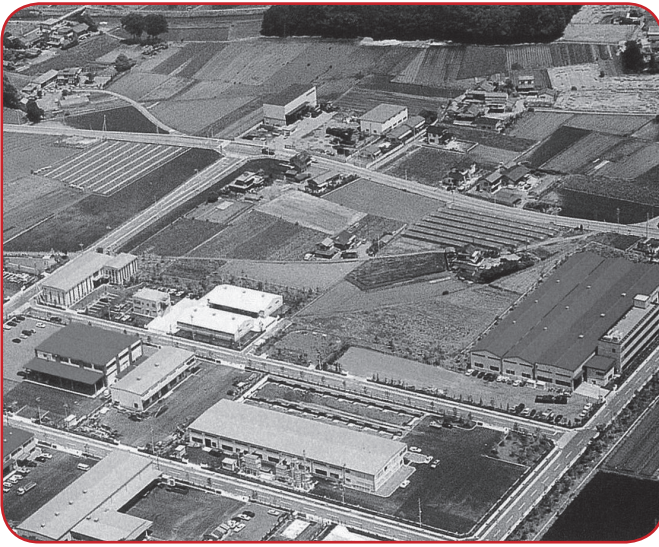
## 上三川町の工業

町の工業は昭和40年代以降、日産自動車栃木工場の誘致をきっかけに大規模な自動車産業を中心に発展し、現在でも町の産業基盤の一つであります。

また、町内には工業団地や工場があり、多種多様な業種の企業が町の工業を担っています。

## かみのかわ工業団地

「かみのかわ工業団地」は、工業の近代化、流通の合理化、公害の防止などを目的として、平成7年5月に操業を開始しました。工業団地には食料品製造業や家具製造業など様々な12企業から成っています。



## テクノパークかみのかわ

多功にある「テクノパーク上三川」は国道352号に近接し、運輸に適した立地条件を持つ工業団地で、物流センターや航空機部品の製造業など多種多様な分野の企業が立地しています。



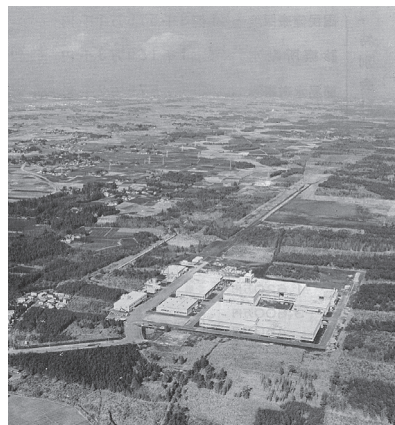
## 石田工業団地・石田南工業団地

日産自動車栃木工場に隣接する「石田工業団地」と「石田南工業団地」は昭和60年から開発計画が進められ、2回に分けて開発が行われ、団地内には自動車部品製造業や食品製造業、倉庫業などが立ち並びます。



## 日産自動車栃木工場

上三川町と栃木県が共同で計画を進めていた大野地区工業団地への日産自動車株式会社の誘致が決定したのは、昭和39年のこと。そして、テストコースを備えた工場の建設が昭和46年の4月に完了しました。高級車の製造を行っているほか工場見学やしらすぎ祭りを実施するなど、地域とのコミュニケーション活動も行っています。



昭和44年、建設中の日産自動車栃木工場



しらすぎマラソン大会では、会場を提供してもらっています。